

「プログラム開発について」

ライフミュージアムネットワーク2020は、現在の福島で求められるミュージアムの新たな役割を「お互いの多様性を認めながら過去に学び現在をつくり未来を考える場を生み出すこと」であると考え、その役割を実現するための機能の拡張を模索するプログラム開発を行いました。テーマは三つ。

「多様なニーズに応えるミュージアムの利活用プログラム」は誰のためでもあるミュージアムの試行。

「生活資料を活用したミュージアムの連携プログラム」は地域に残る生活資料の利活用と地域ミュージアムの連携の試行。

「地域資源の活用による地域アイデンティティの再興プログラム」は地域資源の価値と再定義と編集による地域アイデンティティ再興の試行。

三つのプログラム開発ではどの地域のどのミュージアムでも、

素材や場所を入れ替えることで実施が可能であるかどうかも探りました。

ミュージアムの新たな活用が、それぞれの地域課題の解決につながることを願っています。

■生活資料を活用したミュージアムの連携プログラム

「みんなで比べてみよう！奥会津の民具キット」

このプログラムでは、福島県の奥会津地方を舞台に

「民具」とよばれる生活資料の更なる活用方法を考えました。

地域の暮らしや生活を知るための重要な資料でありながら、

身近過ぎるためにその価値が伝わりづらいという資料でもあります。

また、収集までには多くのミュージアムや自治体を取り組んでいるものの、

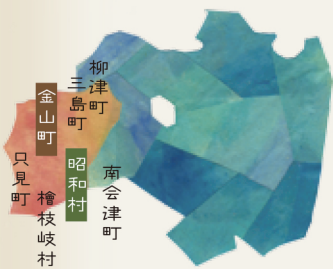
活用については模索中という話もよく聞きます。

こうした課題に取り組み、民具という地域資源をさらに活用するために、

キット化というプログラムを考案しました。

従来のミュージアムの中心だった「展示」以外の活用法を考えることで、

ミュージアムと地域のつながりを再考したいと考えます。



奥会津ってどんなところ？

奥会津とは、柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町、檜枝岐村、南会津町という、

福島県西南部を流れる只見川と伊南川流域の7町村を総称した地域名です。

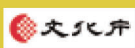
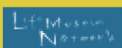
豊かな自然と伝統文化を残す地域ですが、同時に過疎や少子高齢化といった問題も抱えています。

本事業では、昭和村と金山町にご協力いただき、このプログラム開発を実施しました。



令和2年度文化庁地域と共動した
博物館創造活動支援事業

ライフミュージアムネットワーク実行委員会
(事務局：福島県立博物館)



ライフミュージアムネットワーク2020

プログラム開発く生活資料を活用したミュージアムの連携プログラム

民具ハンドブック



金山町の民具

昭和村の民具

みんなで比べてみよう

奥会津の民具キット



「みんなで比べてみよう!奥会津の民具キット」ってどんなもの?

■ミュージアムにおける民具活用の課題

本プログラム開発で取り上げたのは「民具」。地域の暮らしや文化を知る上で、とても重要な資料です。しかし、中山間地の小さな自治体ではミュージアムがない場合もあり、せっかく集めてはいるものの活用の方法がわからないという声も聞こえます。また、調査や整理に人員がかけられない、展示をする場所もない、それらを整備するお金もない、といった理由から、廃校に保管されてひっそりと忘れ去られてしまう、ということもあります。さらに、一時的な置き場所すらなくなり、せっかく集めた民具を除籍・廃棄しなければならない・・・ということすら、現実起こっているのです。

■課題の解消にむけて

それでは、こうした課題にどう向き合えばいいのでしょうか。例えばミュージアムの限られた展示スペースでは、集めた民具の全てを展示することはできません。そこで、これらの資料を閉じ込めておくのではなく、オープンなものにする方法を検討しました。地域の方々の手元に民具を直接届けることのできるキット化は、収集した民具の存在と価値を再認識してもらうことにもつながるはずです。また、民具キットそのものが「モバイルミュージアム」として機能することで、「訪ねていく場」だったミュージアムをよりアクセスしやすいものへと変えてくれる効果も期待できるのではないのでしょうか。

「みんなで比べてみよう!奥会津の民具キット」の作り方

こうした観点から、今回のプログラム開発では民具のキット化に取り組むこととしました。

ご協力いただいたのは昭和村と金山町。それぞれの内容については裏面をご覧ください。大事にしたポイントが3つあります。

ポイント1 地域に合わせたコンセプト

それぞれの地域の状況、民具の収集・整理事業の実績を反映できるように、キットの内容を考えました。今回のプログラム開発の舞台となった奥会津は山間地で、隣接している各町村は、よく似た生活環境にあります。そのため、生活様式や民具も、共通点が多くみられます。しかし、民具を取り巻く状況は様々。そうした点に目を向けると、キットの内容に違いが現れます。同じところと違うところを含むからこそ、それぞれの町村が民具キットを交換してみることで、奥会津としての共通性やそれぞれの地域の独自性がみえてくるのではないかと考えました。

ポイント2 民具を通じたコミュニケーションが目的

民具のキット化は、ミュージアムの学芸員のような、「民具に詳しい人になる」ことが目的ではありません。キットを通じて、家族や地域の人たちとそれぞれの生活や歴史について語り合うこと、色々な人たちのコミュニケーションをツールとすることが目的です!

○キットを作ることは、市民とミュージアムとのコミュニケーション

○キットを使うことは、利用者同士(地域や世代が同じでも違ってても)のコミュニケーション

○キットを運用することは、キットを作ったミュージアム同士のコミュニケーション

民具キットはこの3つのコミュニケーションにつながって行くと考えました。

ポイント3 様々な人が気軽に使える

こうしたキットの利用場面としては、学校教育の場、あるいは回想法などによる高齢者福祉の場が想定されます。でも、それだけではないはず。奥会津では手仕事の伝統が息づいており、若い世代にも生活のための道具を作りたいという気持ちをもった人たちがいます。そういう人たちにとって民具は、カゴの編み方、木の削り方、ワラの織り方といった様々なことを知るための教科書でもあります。

また、トランプやボードゲームの代わりに、お盆やお正月に帰省した家族と民具を囲みながら話すという使い方もできるのではないのでしょうか。

一番重要なのは、このキットがコミュニケーションツールであることです。コミュニケーションがあるから、自分や他人のことが理解できるようになり、生活が豊かになっていくのではないのでしょうか。民具を通じた語りを記録すること、そこから地域の歴史が見えてくる過程はとても面白いものになるはずです。様々なミュージアムがこのキット化に参加していただければ、比較を通じてより多くの気づきをもたらされるかもしれません。

体験談



昭和村で民具キットを作ったら

●昭和村とミュージアム・民具について

名産のからむしを紹介する「からむし工芸博物館」があり、からむし栽培やからむし織に関する民具が展示されています。一方「交流・観光拠点施設喰丸小」にも民具を展示したスペースが作られており、収集された資料が公開されています。地域おこし協力隊や村民ボランティアの方々が民具整理にかかわるなど、地域の人々の手で一歩ずつ整備が進められています。村民によるものづくりのサークルも盛んで、手仕事に関する関心も高い地域です。



■オプションキット1
開炉裏のある暮らし



■オプションキット2
山の恵み



■オプションキット3
食品加工



■オプションキット4
畑の仕事



基本セット

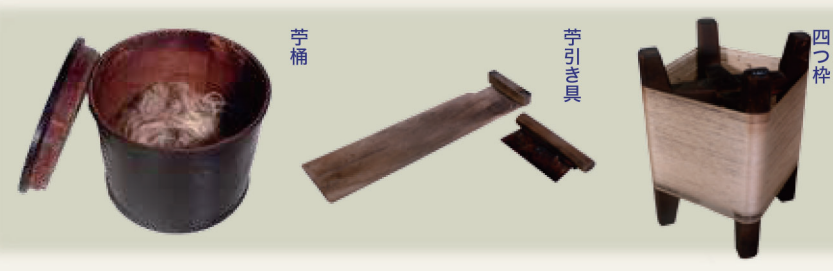
昭和村の民具

■昭和村の民具キットコンセプト

昭和村の多様な暮らしを表現することを目標にしました。そこで、暮らしの様々な場面で使われる民具を幅広く取り込んだ基本キットを考えました。さらにテーマを深めるため、「囲炉裏のある暮らし」「山の恵み」「食品加工」「田畑の仕事」「冬の手仕事」「麻とからむし」というオプションキットも用意しました。その時々利用者に合わせて、構成を柔軟に変えられるようにという意図もあります。利用方法としては、比較的昔の事を知っている世代から、民具や生活についての聞き取りができるようにと考えました。一方で、ものづくりなどをする人たちが昔の民具をみて参考にするという使い方も想定しています。民具をじっくり見て探求してほしいという構成です。



■オプションキット5
冬の手仕事



■オプションキット6
麻とからむし

民具キットによせて
押部 傑木 (昭和村地域おこし協力隊)

昭和村では平成27年度より、民具整理事業が始まりました。採寸等の記録と併せて、使用法・製作法等を記録するための聞き取り調査を行っています。

民具の活用については具体的な仕組みはできていませんが、民具キットを作成し、一般に公開することで、文化財の学習や回想法などの活用に向けての足かりになればと思いつき取り組みました。

キット候補の選定にあたり、衣食住などの各分野から、使用している様子のイメージがしやすいと思うものを選びました。また多くの話題の種になりそうなもの、話題にある程度の関連性を持たせることを意識すると、「食糧」「囲炉裏」「山」「手仕事」「家畜」「行事」など大まかに核となるキーワードが浮かびました。そこから持ち運ぶの容易なものを選んでまとめました。

金山町で民具キットを作ったら

●金山町とミュージアム・民具について

金山町には、現在民具を常設で展示するミュージアムはありません。しかし、この町には弥平民具コレクションという民具コレクションがあります。これは栗城弥平さんという町民の方が集めた一大コレクションで、今は町の貴重な財産になっています。また、町民の皆さんがお持ちの写真を集めてデータベース化する『かねやま(村の肖像)プロジェクト』という意欲的な取り組みを行って来ました。町の歴史や文化をアーカイブすることへの高い意識が伺われます。

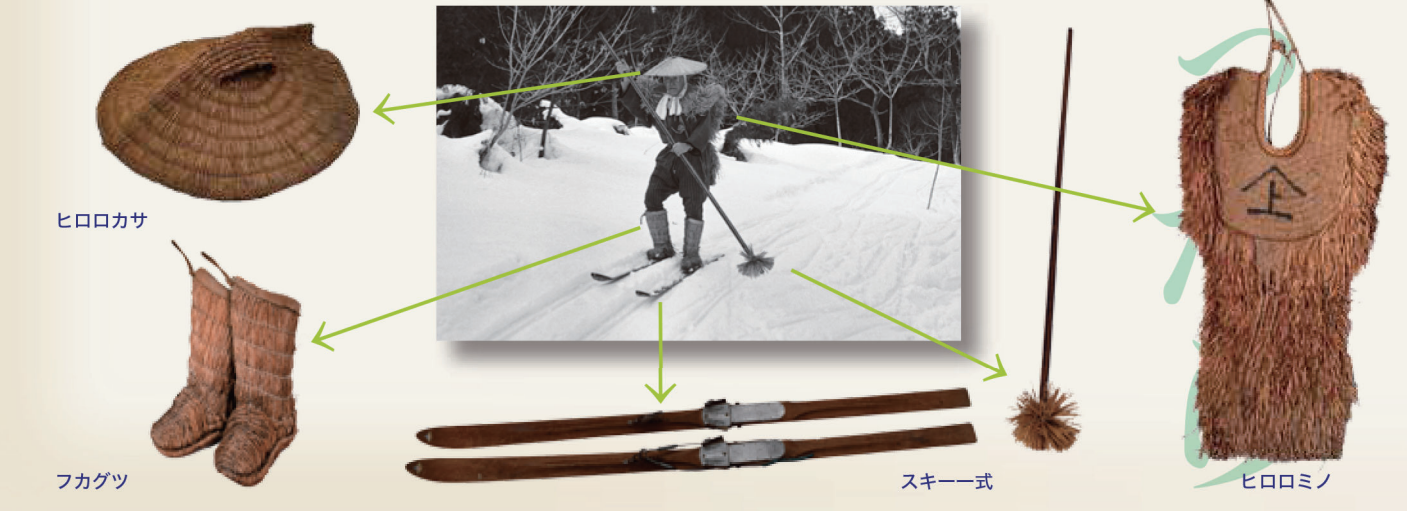


金山町の民具

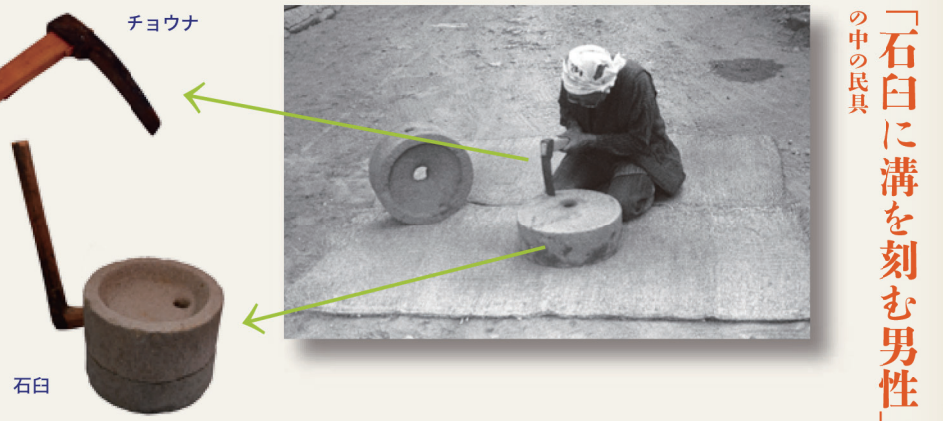


■金山町の民具キットコンセプト

写真を地域の文化資源としてアーカイブする活動を続けてきたこともあり、写真を活用する方法を考えました。弥平民具コレクションについては、その使用場面を後に再現した写真があります。この写真と民具を対照させながら、民具を活用することがコンセプトです。民具と写真を並べて、どの民具が写真に写っているかを探していく。さらに写真に写った人がしていることは何なのか、どんな使い方をしているのかを考えます。子どももゲーム感覚で楽しみ、大人も写真や民具の細部に注意を向けることで民具そのものと、それを通じて金山の暮らしや文化をより深く知ってもらえるような仕掛けを考えました。



「スキーをする男性」



「石臼に溝を刻む男性」



「洗濯をする女性」